

公立学校建物の耐力度調査説明書(平成30年4月) 正誤表

I 鉄筋コンクリート造の耐力度調査

訂正箇所		誤	正
ページ	項目・行数		
I-53	表3「グレード 0.5」の「躯体の状態」1行目	・幅 0.3mm <u>未滿</u> のひび割れが	・幅 0.3mm <u>以上</u> のひび割れが

II 鉄骨造の耐力度調査

訂正箇所		誤	正
ページ	項目・行数		
II-24	上から5行目	被災歴が無い…被災度区分判定で軽微に区分される場合	被災歴が無い…被災度区分判定(日本建築防災協会「震災建築物の被災度区分判定基準および復旧技術指針」による、 <u>以下同様</u>)で軽微に区分される場合
II-49	上から12行目の判別式	$\theta \leq 1/120 \cdots \cdots 1.0$	$\theta \leq 1/200 \cdots \cdots 1.0$
II-52	下から3行目	被災歴が無い…被災度区分判定で軽微に区分される場合	被災歴が無い…被災度区分判定(日本建築防災協会「震災建築物の被災度区分判定基準および復旧技術指針」による、 <u>以下同様</u>)で軽微に区分される場合

III 木造の耐力度調査

訂正箇所		誤	正
ページ	項目・行数		
III-20	下から10行目	相対沈下量の最大値 ϕf により	相対沈下量の最大値を元に算出した沈下率 ϕf により
III-35	上から3行目	低減係数を求めた。	低減係数を求めた。 <u>1/4 未滿</u> となる場合の低減係数は <u>0.6</u> を <u>0.5</u> に低減している。
III-46	上から15行目	外壁土台、外壁柱、 <u>2階床梁</u> 、小屋梁	外壁土台、外壁柱、 <u>床梁</u> 、小屋梁
III-49	上から2行目	相対沈下量の最大値 ϕf により	相対沈下量の最大値を元に算出した沈下率 ϕf により

IV 補強コンクリートブロック造の耐力度調査

訂正箇所		誤	正
ページ	項目・行数		
IV-57	(2) 鉄筋かぶり厚さ 1行目	<u>建築基準法施行令</u> には耐力壁のかぶり厚さは…	日本建築学会補強コンクリートブロック造設計基準(2006)には耐力壁のかぶり厚さは…